

# 郡山市セーフコミュニティ推進協議会

## こどもの安全対策委員会

### 活動報告



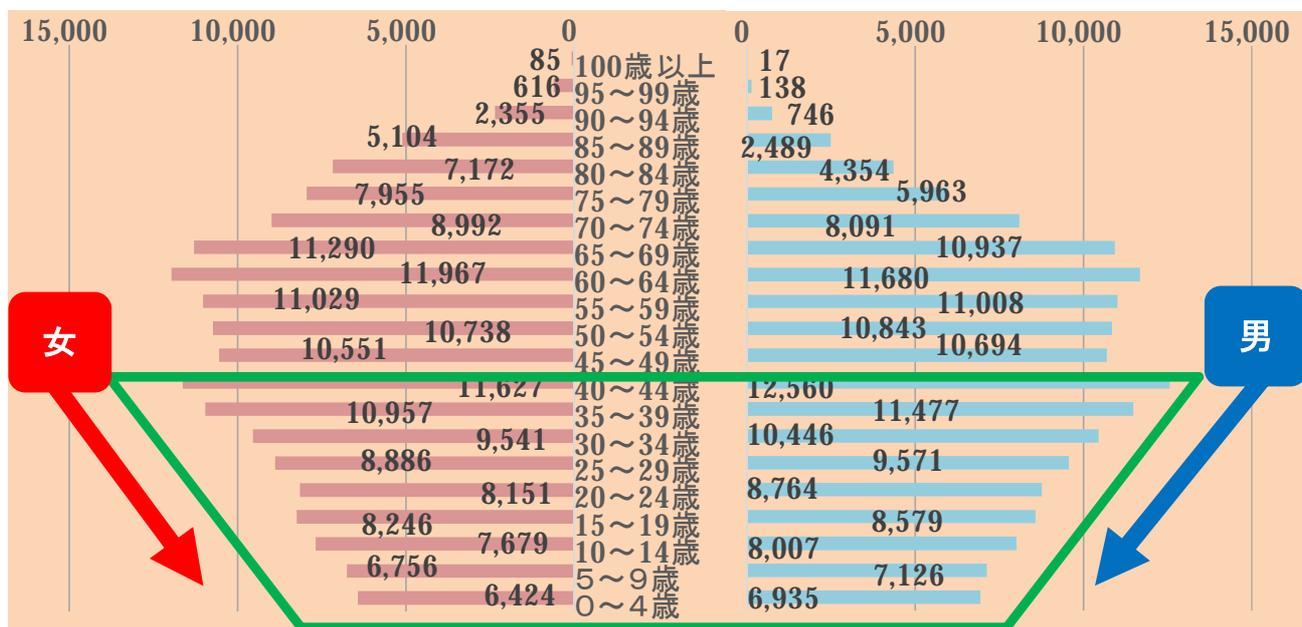
報告者 委員長 吾妻 利雄

## こどもの安全対策委員会を設置した背景

背景① こどもの数が年々減少している。

図1 郡山市の年齢階層別人口(2015.4.30現在)

人口 326,546人 (女性:166,121人 男性:160,425人)



出典:郡山市住民基本台帳

## 背景② 0歳～6歳の乳幼児の外的要因による救急搬送は、高齢者の次に多い

図2 郡山市の年代別救急搬送件数

※病気を除く

年代	件数	件数の構成比	人口(人)	人口1,000人あたり件数
乳幼児(0-6歳)	222件	5%	18,641人	12件
青少年(7-17歳)	321件	8%	34,718人	9件
生産年齢(18-64歳)	1,933件	45%	198,471人	10件
高齢者(65-∞)	1,796件	42%	72,544人	25件
合計	4,272件	100%	324,374人	56件

出典：郡山地方広域消防組合 2014年救急搬送データ

2

## 背景③ 新生児～乳幼児(0～6歳)では一般負傷、少年(7～17歳)では交通事故による救急搬送が一番多い。

図3 郡山市の救急搬送要因順位

※病気を除く

単位：人

	1位		2位		3位		4位		5位	
	要因	件数	要因	件数	要因	件数	要因	件数	要因	件数
新生児～乳幼児(0～6歳)	一般負傷	669	交通事故	208	加害水難	3	/		/	
少年(7～17歳)	交通事故	833	一般負傷	369	運動競技	283	自損行為	25	加害	18
成人(18～64歳)	交通事故	4,714	一般負傷	2,222	自損行為	508	労働災害	408	加害	276
老人(65歳以上)	一般負傷	4,395	交通事故	1,303	自損行為	84	労働災害	38	加害	35
合計	一般負傷	7,655	交通事故	7,058	自損行為	617	運動競技	483	労働災害	443

出典：郡山地方広域消防組合 2010～2014年救急搬送データ(国表)

3

# こどもの安全対策委員会の構成

## 【市民団体等 6人】

民生児童委員協議会連合会(1人)  
 PTA連合会(1人)  
 青少年健全育成推進協議会(1人)  
 子ども会育成連絡協議会(1人)  
 観光交流振興公社(1人)  
 郡山市子ども子育て支援企業組合(1人)

合計 15人

## 【行政 4人】

こども支援課(1人)  
 こども育成課(1人)  
 教育委員会総務課(1人)  
 学校教育推進課(1人)

## 【保育・教育関係者 5人】

認可保育所長会(1人)  
 民間認可保育所連絡会(1人)  
 私立保育園連絡協議会(1人)  
 私立幼稚園・認定こども園連合会(1人)  
 小学校長会(1人)

4

# これまでの活動経過

回	開催日	目的	活動概要
1	2015年	7月8日	研修、データ確認 ・セーフコミュニティ研修 ・地域診断2014年等のデータ確認
2		8月4日	主観的な課題の検討 ・各委員の主観的な課題を検討
3		9月15日	客観的な課題の検討 ・データから、ケガや事故の特徴を把握
4		10月13日	重点課題の抽出 ・問題の分類、データとの関連を確認
5		11月10日	重点課題の抽出 ・課題の優先順位付け
6		12月14日	方向性・対象の検討 ・環境、教育、規制の検討
7	2016年	1月18日	具体的対策の検討 ・現在行われている対策の確認とその活用や改善、 これまでにない連携、協働の検討
8		2月15日	
9		5月23日	具体的対策の検討 ・新メンバーを迎えての活動の振り返り
10		6月7日	重点課題の再確認 ・重点課題をデータから再検討
11		7月12日	重点課題の一部変更 ・重点課題のあいまいな部分を修正
12		8月4日	具体的対策の検討 ・現在行われている対策の確認とその活用や改善、 これまでにない連携、協働の検討

5

回	開催日	目的	活動概要
13	2016年 10月27日	具体的対策の検討	・現在行われている対策の確認とその活用や改善、 これまでにない連携、協働の検討
14	11月25日	具体的対策の検討	・事前指導の振り返り ・現在行われている対策の確認とその活用や改善、 これまでにない連携、協働の検討
15	12月14日	具体的対策の検討	・現在行われている対策の確認とその活用や改善、 これまでにない連携、協働の検討
16	2017年 1月11日	具体的対策の検討	現在行われている対策の確認とその活用や改善、 これまでにない連携、協働の検討
17	1月18日	具体的対策の検討	・現在行われている対策の確認とその活用や改善、 これまでにない連携、協働の検討
18	2月14日		
19	3月10日		
20	4月21日		
21	7月26日	・効果検証 ・具体的対策の検討	・実施した取組みの結果報告 ・成果指標の検討 ・現在行われている対策の確認とその活用や改善、 これまでにない連携、協働の検討
22	8月22日	現地審査資料検討	・現地審査用資料の内容確認及び修正
23	10月3日		

6

## 主観的な課題

1. 通学途中の子どもの交通事故が多い。
2. 就学前(0～6歳)の子どもの遊具によるけが、転倒・転落のケガが多い。
3. 児童虐待が社会問題になっている。
4. 通学路(歩道・自転車用道路)の整備が不十分。

### ワークショップにより課題を抽出



7

# データに基づく客観的な課題

## 対策委員会設置の時点で、既に示されていた特徴

### 特徴①

乳幼児(0~6歳)の救急搬送件数は、高齢者の次に多い。  
(図2より)

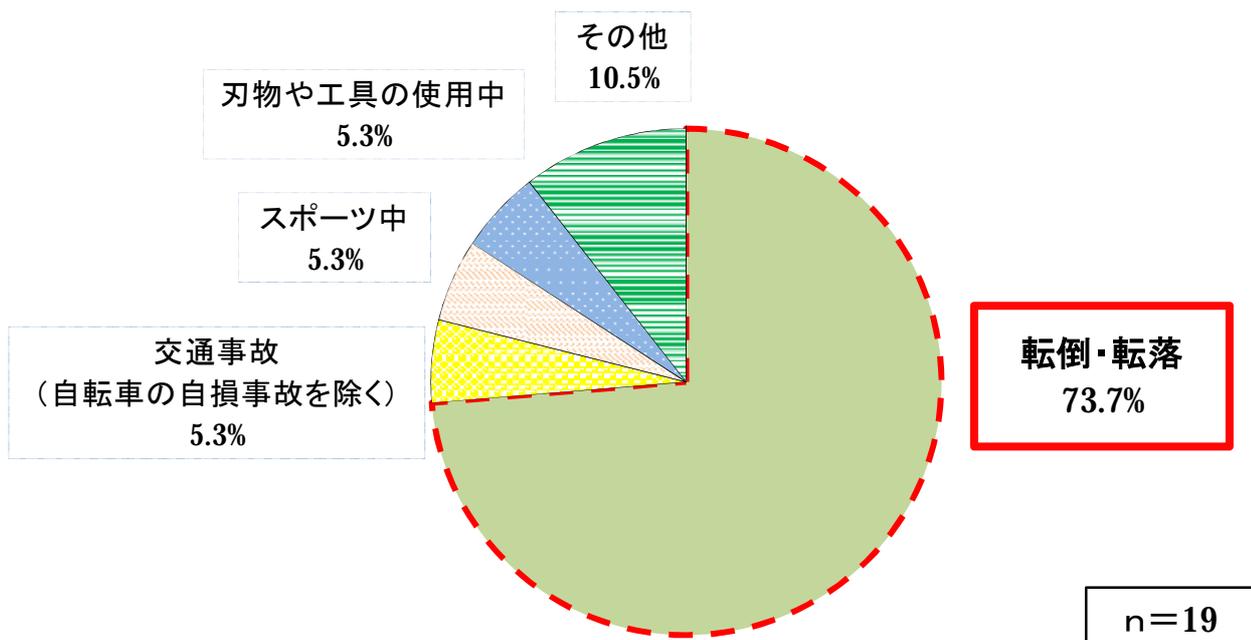
### 特徴②

新生児~乳幼児(0~6歳)では一般負傷、少年(7~17歳)では交通事故による救急搬送が一番多い。  
(図3より)

8

### 特徴③ 乳幼児(0~6歳)のけがの原因は、転倒・転落が多い

図4 乳幼児のけがの原因別件数割合

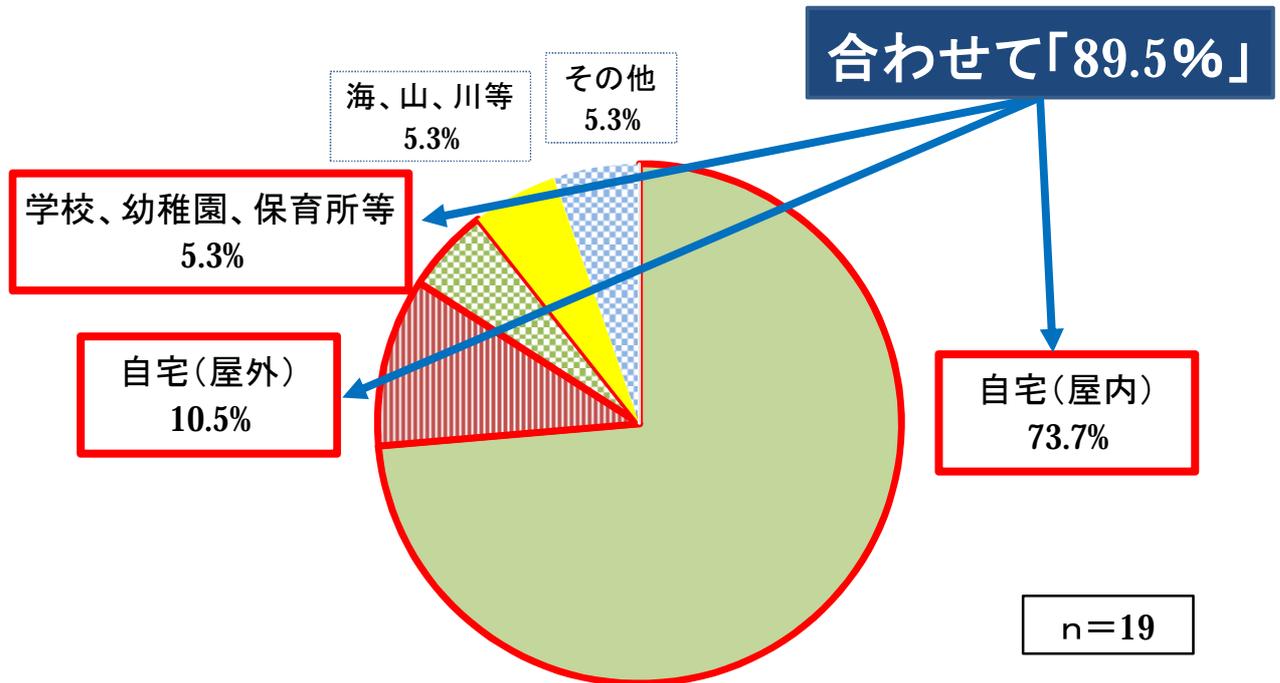


出典:安全・安心なまちづくりについての意識調査(2016年)

9

特徴④ 乳幼児(0～6歳)のけがは、自宅と学校、幼稚園、保育所等が多い

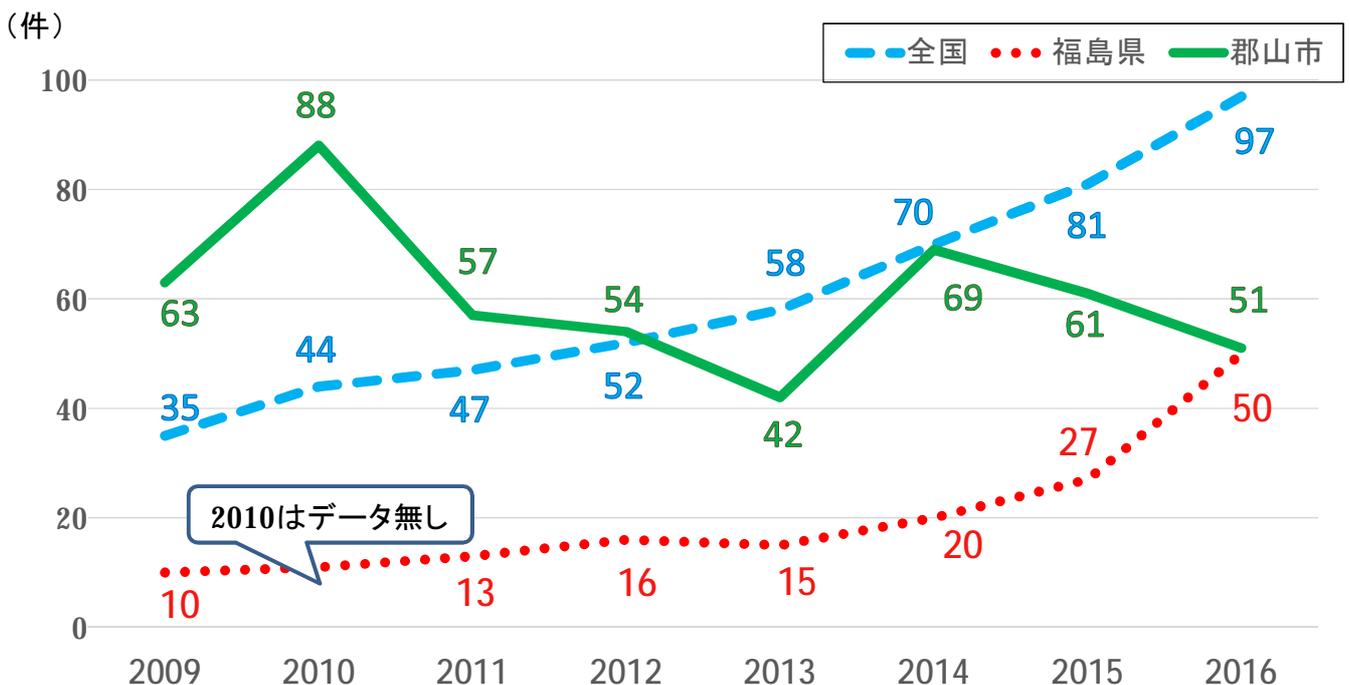
図5 乳幼児がけがをした場所の件数割合



出典:安全・安心なまちづくりについての意識調査(2016年)

特徴⑤ 郡山市への児童虐待の相談件数は、近年、減少傾向にある

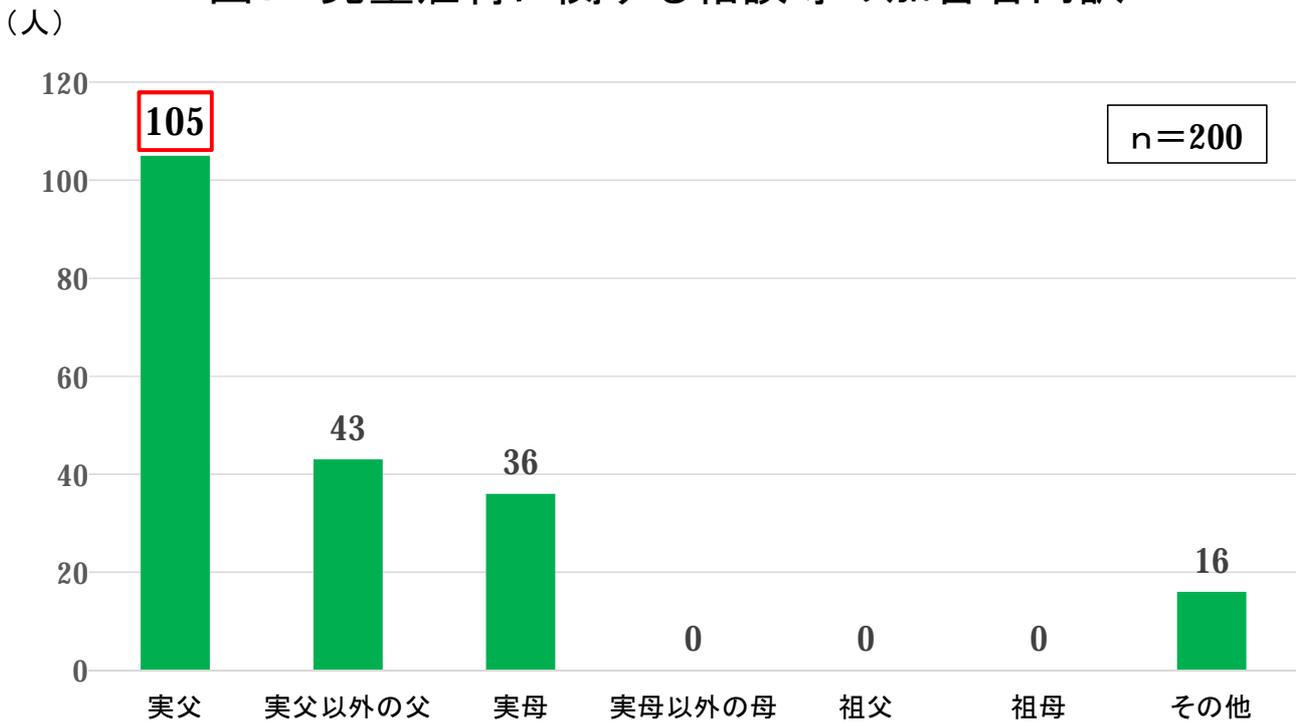
図6 人口10万人当たりの児童虐待相談件数推移



出典:厚生労働省「2009～2015年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数」  
 こども家庭相談センター「2009～2016年度 相談等の取扱件数推移」

**特徴⑥ 児童虐待の加害者は、実の父が最も多い。**

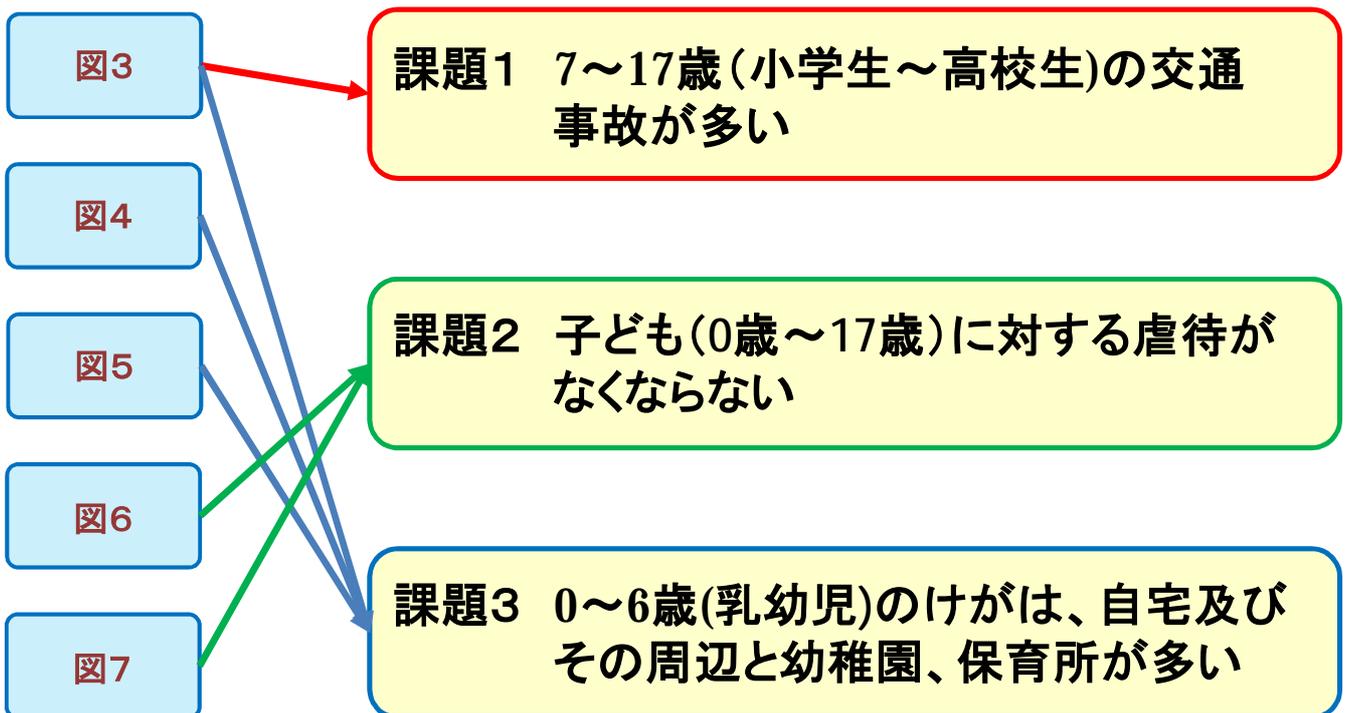
図7 児童虐待に関する相談等の加害者内訳



出典：郡山警察署・郡山北警察署「2011～2016年度 児童相談通告件数」

**重点課題の選定**

図8



# 国・県・警察、市、地域別の現在の取組み

図9

		国・県・警察	市	地域
課題① 7～17歳(小学生～高校生)の交通事故が多い	環境改善	道路環境の改善		
	規則・罰則			
	教育・啓発	悪質違反者講習	交通安全教室	通学路安全指導 課題1 取組①
課題② 子どもに対する虐待がなくなる	環境改善	子育て支援・保育施設の機能充実		見守り活動
	規則・罰則	罰則強化	通報・連絡	
	教育・啓発	啓発・相談窓口の広報		課題2 取組①、②
課題③ 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い	環境改善	施設の改善・従事者数の適正化		
	規則・罰則			
	教育・啓発	けがをしない体づくり 啓発		課題3 取組①、②

インターネットやテレビ、子育て情報誌等の情報  
子育て世代の交流による事故情報の共有

## 既存の取組み

### 【道路環境の改善】

国、県、市、警察、学校、地域団体との協働による通学路の安全点検



【啓発・相談窓口の広報】  
児童虐待相談ダイヤルのチラシ配布

【啓発・相談窓口の広報】  
児童虐待防止に関する街頭活動



## 既存の取組み

### 【啓発】

けがや事故が起きやすい状況を再現した「事故予防モデルルーム」の設置



### 【けがをしない体づくり】

子どもの体力・運動能力を向上させるための運動あそびの実施



16

## 既存の取組み

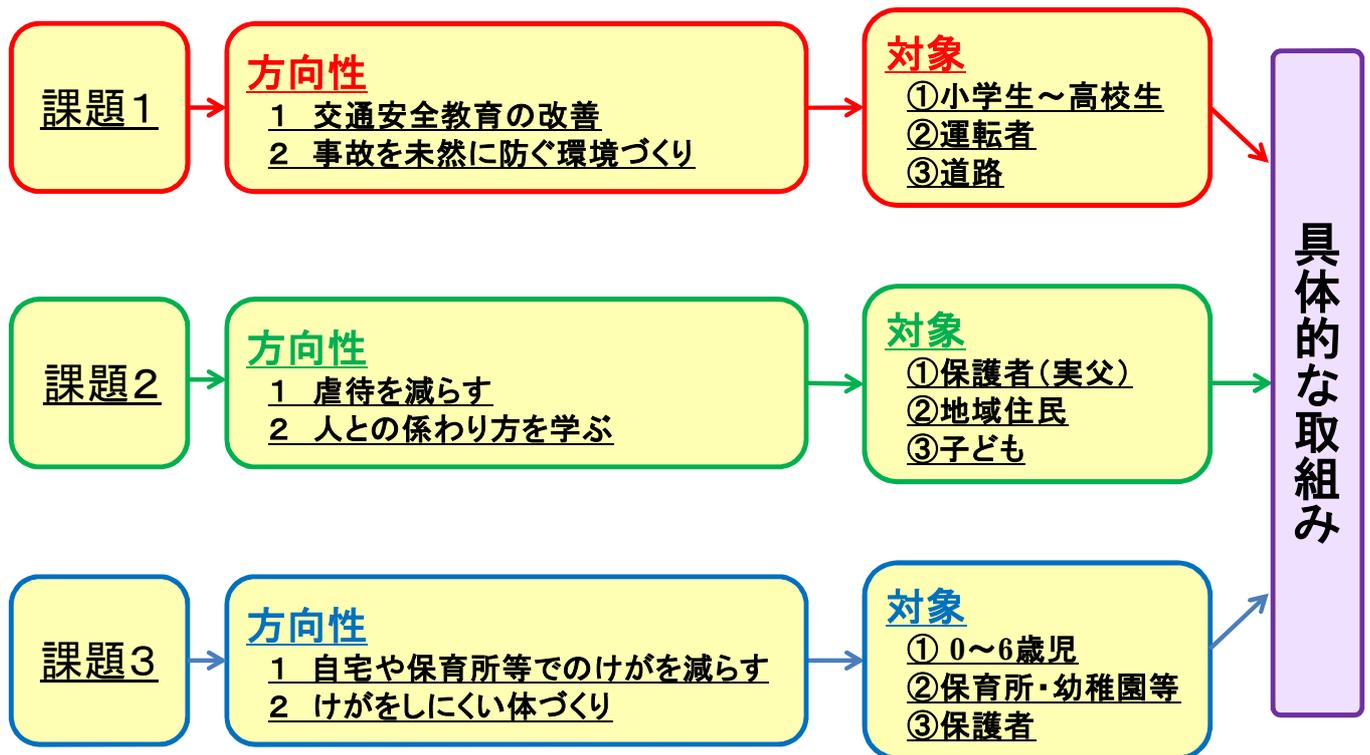
子どもの体力・運動能力を向上させるための遊び場の整備



17

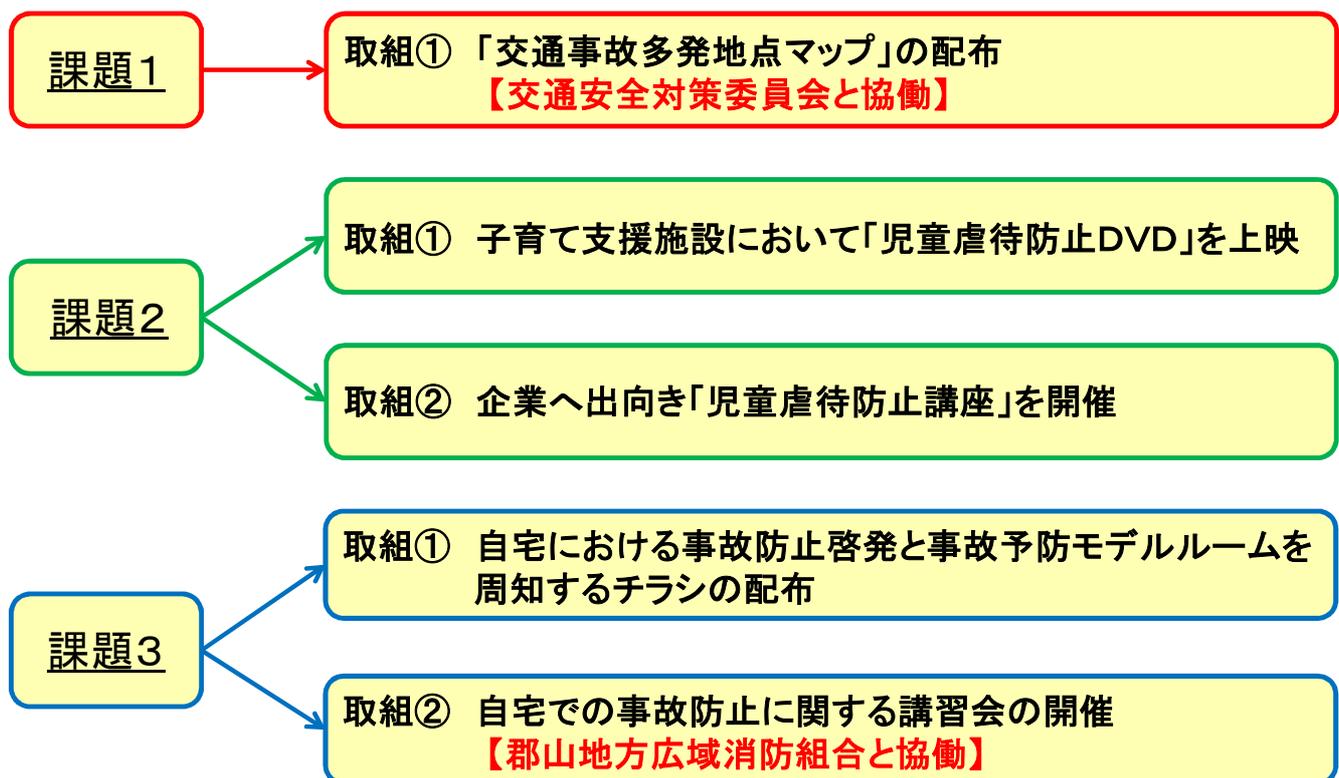
# 重点課題に対する方向性、重点対象

図10



# 重点課題に対する取組み

図11



## 課題1 7～17歳(小学生～高校生)の、交通事故が多い

### 取組① 交通事故多発地点マップの配布

#### 内容

交通安全対策委員会との協働取組として、保育所や幼稚園を通じて、運転者でもある子どもの保護者に対して「交通事故多発地点マップ」を配布する。

#### 方向性

②事故を未然に防ぐ環境づくり

#### 対象

②運転者

#### 実施主体

こどもの安全対策委員会  
交通安全対策委員会

#### 活動指標

配布先数:141施設  
配布部数:約11,000部



20

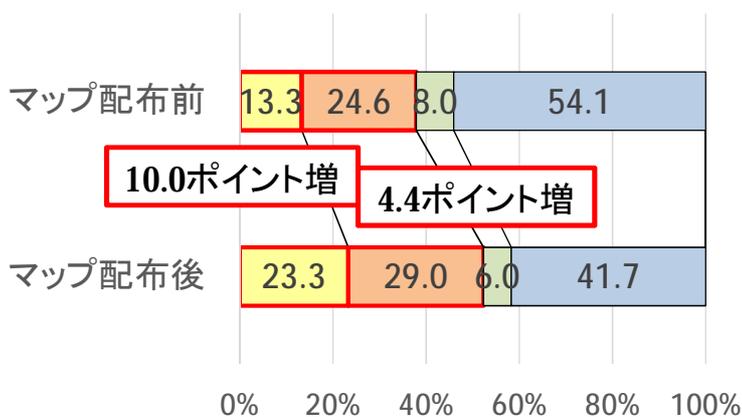
## 課題1 7～17歳(小学生～高校生)の、交通事故が多い

### 取組① 交通事故多発地点マップの配布

#### 効果検証方法

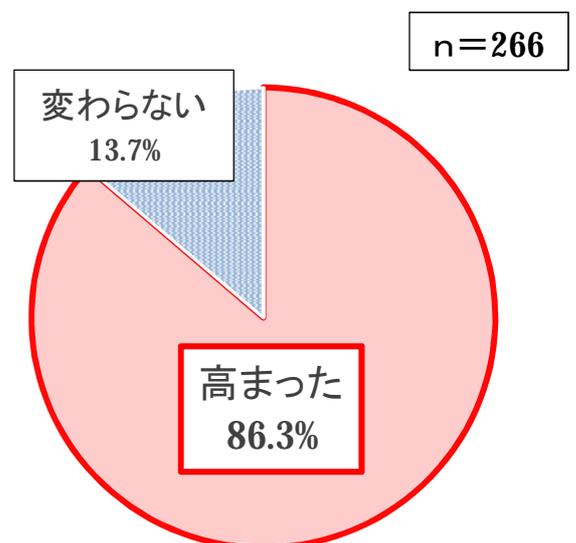
交通事故多発地点マップ配布前後にアンケートを実施  
(事前:2017年5月8日～12日、事後:2017年7月5日～12日)

図12 事故が多く発生している場所の認知度



- 自宅周辺、それ以外の両方知っている
- 自宅周辺のみ知っている
- 自宅周辺以外のみ知っている
- どちらも知らない

図13 交通安全意識の変化



21

## 課題2 子どもに対する虐待がなくなる

### 取組① 子育て支援施設において「児童虐待防止DVD」を上映

#### 内容

泣き止まない子どものあやし方や、泣き止ませようとして子どもを激しく揺さぶる虐待行為の危険性等に関するDVDを、子育て支援施設において試験的に実施した。

#### 方向性

①虐待を減らす

#### 対象

①保護者

#### 実施主体

こどもの安全対策委員会

#### 活動指標

視聴者数:54人  
(5月20日～6月21日)



#### 上映風景



22

## 課題2 子どもに対する虐待がなくなる

### 取組① 子育て支援施設において「児童虐待防止DVD」を上映

効果検証方法 児童虐待防止DVDの視聴後にアンケートを実施

図14 子どもの揺さぶりが虐待になることの認知度

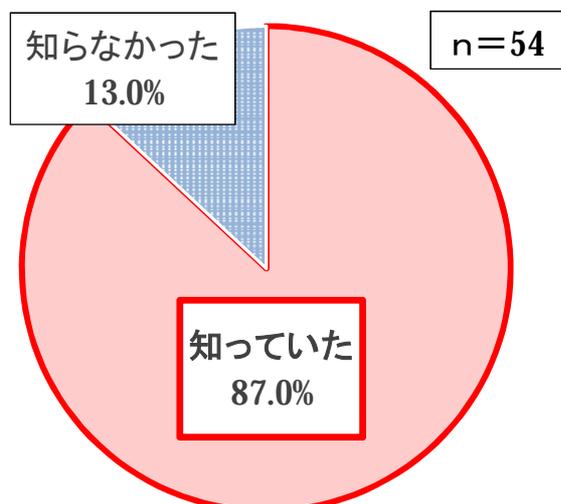
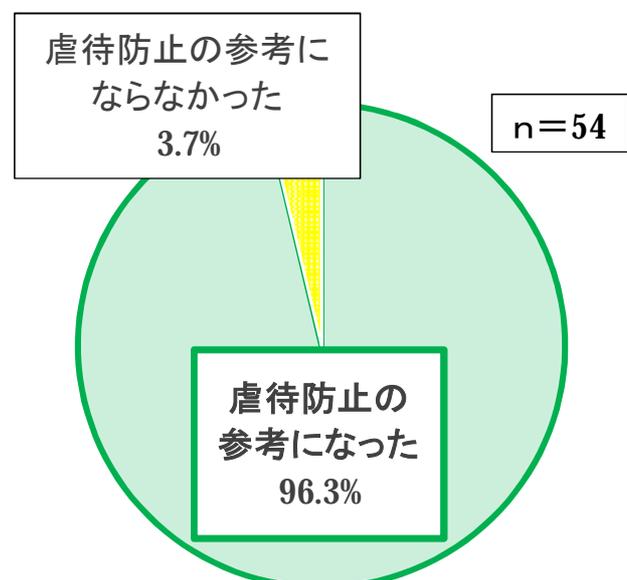


図15 DVDの感想



23

## 課題2 子どもに対する虐待がなくなる

### 取組① 子育て支援施設において「児童虐待防止DVD」を上映

図16 児童虐待防止に関する意識の変化

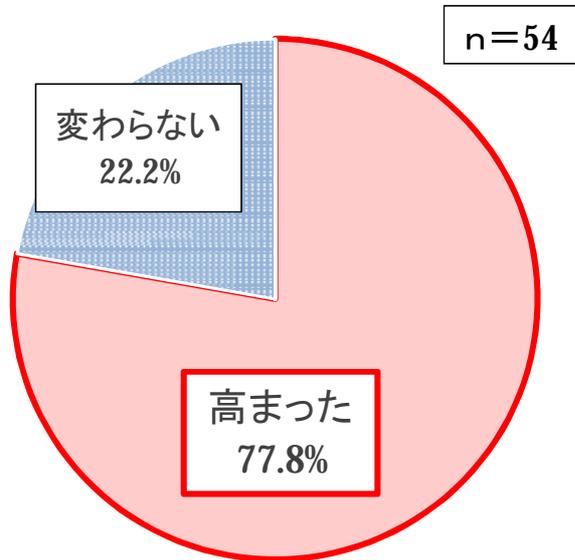


図17 アンケートで寄せられた主な意見

揺さぶりについて、言葉では分からなかった部分が、映像でよく分かった。

揺さぶりが障害を起こすことが怖いと思った。

これから親になる人にもこれを見る機会があれば良いと思う。

赤ちゃんが泣き止まないことがよくあることを知れてよかった。

出産前に見る機会があると良いと思った。

24

## 課題2 子どもに対する虐待がなくなる

### 取組② 企業へ出向き「児童虐待防止講座」を開催

#### 内容

郡山市が、市民からの要請を受け様々な内容の講座を実施する「出前講座」のメニューに「児童虐待防止講座」を追加し、企業等へ出向き、普段、子育て教室等に出席できない父親や地域住民に対し講座を開催する。

#### 方向性

①虐待を減らす

#### 対象

①保護者、②地域住民

#### 実施主体

郡山市

#### 活動指標

開催回数  
参加者数

#### 【現時点での取組状況】

- ・出前講座へメニュー追加済み
- ・対象者への周知方法について検討中

25

## 課題3 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い

### 取組① 自宅における事故防止啓発と事故予防モデルルームを周知するチラシの配布

#### 内容

自宅での事故を防止するためのチェックリストと、市が設置している子育て支援施設「ニコニコこども館」にある「事故予防モデルルーム」の案内を掲載したチラシを、保育所・幼稚園に通う子どもの保護者に対して配布する。

#### 方向性

- ① 自宅や保育所等でのけがを減らす

#### 対象

- ③ 保護者

#### 実施主体

こどもの安全対策委員会

#### 活動指標

配布先数：141施設

配布部数：約11,000部



26

## 課題3 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い

### 取組① 自宅における事故防止啓発と事故予防モデルルームを周知するチラシの配布

#### 効果検証方法

子どものけが・事故防止等チラシ配布前後にアンケートを実施  
(事前：2017年5月8日～12日、事後：2017年7月5日～12日)

図18 自宅内で子どもの事故防止策を実施している人の割合

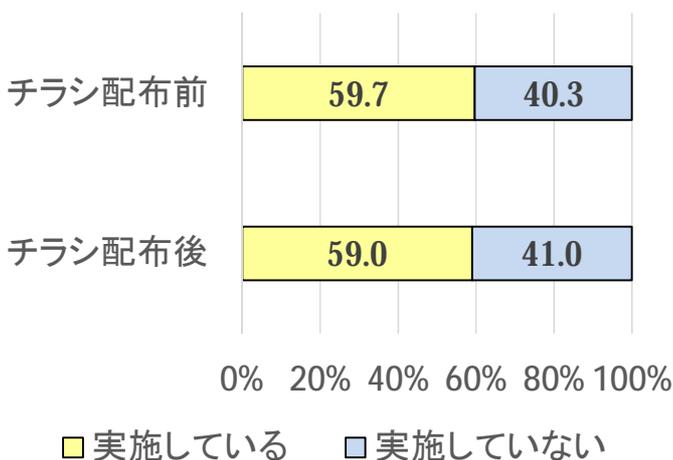
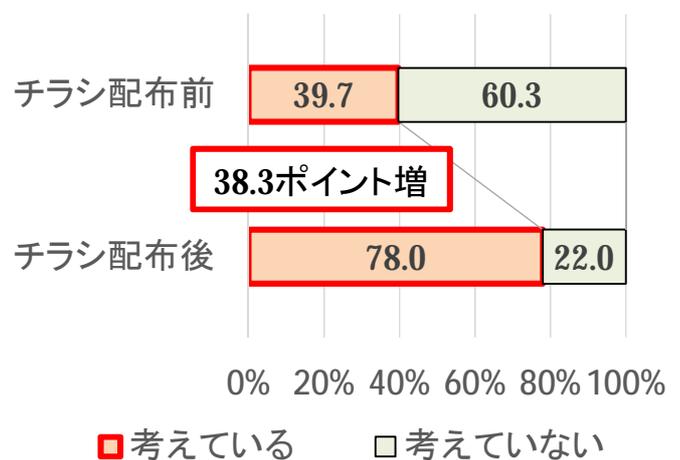


図19 今後、自宅内で事故防止策を実施したいと考えている人の割合



27

### 課題3 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い

#### 取組① 自宅における事故防止啓発と事故予防モデルルームを周知するチラシの配布

図20 事故予防モデルルームの認知度

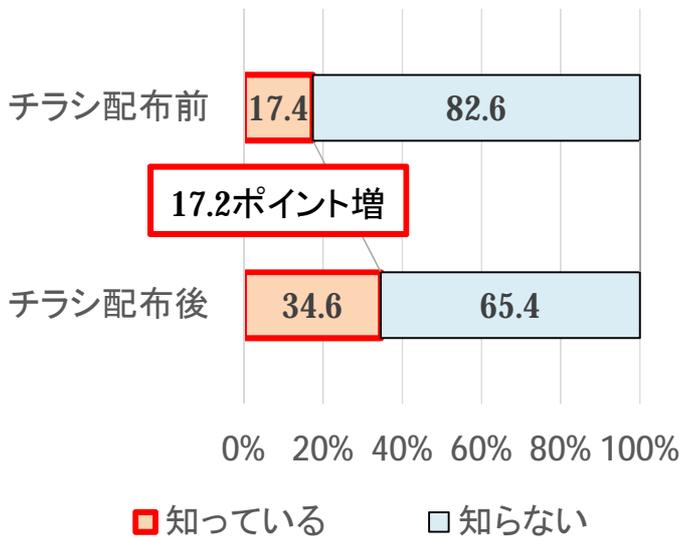
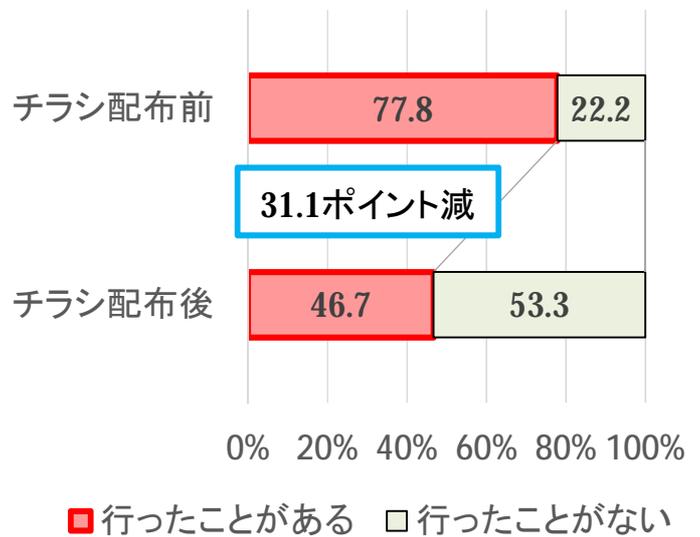


図21 事故予防モデルルームを「知っている」と回答した人のうち、行ったことがある人の割合



28

### 課題3 0～6歳(乳幼児)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い

#### 取組② 自宅での事故防止に関する講習会の開催

##### 内容

郡山地方広域消防組合と郡山市が協働し、「事故予防モデルルーム」を活用して、救急救命士が自宅でのけがや事故の予防法や危険箇所についての講習を行うことで、子どものけがや事故の予防に関する意識を高める。

##### 方向性

- ①自宅や保育所等でのけがを減らす

##### 対象

- ①0～6歳児、③保護者

##### 実施主体

郡山市  
郡山地方広域消防組合

##### 活動指標

開催回数  
参加者数

#### 【現時点での取組状況】

・11月中旬開催「ニコニコこども館まつり」  
において実施予定

29

## 取組みの成果指標

課題	取組	短期指標	中期指標	長期指標
7～17歳の交通事故が多い	交通事故多発地点マップ配布  141施設 約11,000部	事故多発地点の認知度の向上  配布前:37.9% ↓ 配布後:52.3%	交通安全意識の高まり  「高まった」と回答した者:86.3%	子どもの交通事故の発生件数の減少

30

## 取組みの成果指標

課題	取組	短期指標	中期指標	長期指標
子どもに対する虐待がなくなる	児童虐待防止DVD上映  54人	児童虐待行為の認知度の向上  揺さぶりが虐待行為になることを知っていた人:87.0%	児童虐待防止に関する意識の高まり  「高まった」と回答した人:77.8%	児童虐待に関する相談件数の増加
	児童虐待防止講座開催  (調整中)	児童虐待行為の認知度の向上	児童虐待防止に関する意識の高まり	

31

## 取組みの成果指標

課題	取組	短期指標	中期指標	長期指標
0～6歳のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い	子どもの事故防止等チラシ配布  141施設 約11,000部	事故予防モデルルームの認知度の向上  配布前:17.4% ↓ 配布後:34.6%	自宅での事故防止対策の実施割合の向上  配布前:59.7% ↓ 配布後:59.0%	自宅とその周辺、幼稚園、保育所でのけがの発生件数の減少
	事故防止講習会開催  (調整中)	自宅での危険箇所の認知度の向上		

32

## 取組後の変化と気づき

重点課題	取組後の変化	気付いたこと
7～17歳の交通事故が多い	交通事故多発地点の認知度が上がった  交通安全に対する意識が高まった	事故多発地点を知らない人が意外に多い。
子どもに対する虐待がなくなる	児童虐待防止に関する意識が高まった	どのような行為が虐待になるのかを既に知っている人が意外に多い。  視覚的な周知は効果的である。
0～6歳のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い	自宅でのけが防止策を実施したいと考えている人が増えた  事故予防モデルルームの認知度が上がった	約40%の人が、自宅で子どもへの安全対策をしていない。  事故予防モデルルームがあまり知られていなかった。

33

## 現時点での課題と今後の方向性

課題	現時点での課題	今後の方向性
7～17歳の交通事故が多い	交通事故多発地点において、ハード・ソフトの両面から、どのような対策をとれるか	交通事故多発地点における事故件数の減少につながる取組の検討
子どもに対する虐待がなくならない	妊娠中の親へどのように虐待行為の周知を図っていくか	児童虐待防止講座の効果的な周知方法についての検討 児童虐待防止DVDを妊娠中の親に上映できる機会の検討
0～6歳のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い	取組前後で、けが防止策を実施した割合が変わらなかった 事故予防モデルルームに来た人が増えなかった	自宅でのけが防止策を実際に実施してもらえるような取組の検討 事故予防モデルルームに来てもらえるような取組の検討

34

御清聴ありがとうございました。

